

(様式 1-2) (用紙寸法は、日本工業規格 A 列 4 とする。)

(※本様式 1-2 については、別紙を添付することも可能とするが、別紙も含め、全体で 6 ページ以内に収めること。また、別紙を添付する場合は、A 4 サイズで作成すること。)

事業計画書

1. 事業の題名

「 チャレンジぼうさい in 四季が丘 」

2. 業務の委託期間

委託を受けた日から平成 年 月 日まで

3. 選択テーマ

※単独テーマに該当する場合には、いずれか一つに○を、複数テーマに該当する場合には、主なテーマに◎、関連するテーマに○を付ける。

テーマ	該当の有無
若者の自立・社会参画支援	○
地域の防災拠点形成支援	○
地域人材による家庭支援	
地域振興支援	
その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援	○

4. 支援プログラム実施組織の構成

①組織の全体構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
	四季が丘地区コミュニティづくり協議会 会長	
	四季が丘地区自主防災連絡協議会 議長	
	四季が丘地区町内会連合会 会長	
	四季が丘夏祭り実行委員会 会長	
	四季が丘中学校 校長	
	廿日市市自治振興部地域政策課	
	廿日市消防署西分署	

②事業推進担当社会教育主事（役職が社会教育主事でない場合は事業の中心となる社会教育関係職員）

氏名	所属・役職等	備考欄
足立 勝	四季が丘市民センター 主査	

5. 取組みの趣旨・目的

(地域の現状、解決すべき地域の課題、それに対する解決の取組概要等を記載すること。)

廿日市市の四季が丘地区は、平成元年から分譲が開始された典型的な振興団地であり、現在では徐々にではあるが地区内人口の少子高齢化が進行しつつある。地区住民の防災に対する意識は高く、四季が丘地区自主防災連絡協議会、各丁目ごとの町内会・四季が丘地区町内会連合会の活動は非常に活発である。

しかしながら、現状では以下のような課題があることが指摘できる。

- ① 平日の日中の災害対策が弱い
- ② 団地内にある中学校との防災に関する連携が弱い
- ③ 地域住民が継続的に関わるような組織や活動がない
- ④ 十数年後には高齢化が一気に進むことが予想されることから、そのために早めの対策が必要

本事業は、こうした地域課題を克服するため、自主防災、コミュニティ、町内会、中学校を巻き込んだ事業を企画するものであり、そのための最初の施策として、大学教授等防災の専門家を講師とした講演会（年2回（自助・共助の必要性を理解してもらう講座と非常時の栄養学講座））、地区のイベント（「夏祭り」と「とんど」）への参加を通じたコミュニティづくり、防災ウォーキング（年2回）、各町内会単位で実施している救命救急講習会、ポポロ公園での中学生を主な対象とした防災キャンプ（夏）を実施する。

①の課題克服のためには、中学生の災害に対する意識向上と共助力強化が不可欠であることから、②の課題を解決する取組みとして中学生ができるだけ多く参加できるよう、中学校への情報提供と市民センターで毎月開催される企画運営委員会等の場でPTAや中学校と共同で行える事業やプログラムを継続的に検討する。

③の課題に対しては、単年度での人材育成は難しいことから、次年度以降の取組みを含めて地区の理解を得られるよう各組織と連携を強化していきたい。

④の根本的解決方法は団地内人口の流動性を高めることであるが、こちらの課題についても一気に課題解決することは困難であるので、当面は高齢者への見守りが行き届いた地域づくり（コミュニティ意識の向上）や高齢者特有の非常時留意事項の啓発活動を行うことで対処する。

6. 支援プログラムの具体的実施内容及び実施方法等

支援プログラムは、次の4つの課題解決を図るために実施するものである。

- ① 平日の日中の災害対策が弱い・・・今まで地区内防災活動にあまり関心を持っていなかった中学生や主婦層の関心を得るため、年間を通したプログラムのそれぞれに参加する度にポイントを付与することとし、年度の終わりにはポイントの多かった受講者上位20名に記念品を授与する。スタンプをカードに押すことで参加意欲を高める効果と競争意欲を刺激しつつ、主婦層や中高生の防災意識の啓発に努める。

防災ウォーキングを春と秋に開催し、ウォーキングの快感を体感してもらいながら地区内にある各町内会の倉庫の位置と倉庫の中に格納されている防災グッズの内容を広く地区住民に知ってもらうことで、日中に災害が仮に起きた時でも団地内に残っている住民である程度の対応ができるようにする。

- ② 団地内にある中学校との防災に関する連携が弱い・・・地区のイベント（「夏祭り」と

「とんど」への参加、防災ウォーキング（年2回）の開催を中学校を通じて生徒と保護者に知らせるとともに、こうしたイベントを楽しんでもらいながらロープワーク・担架レースや大鍋の炊き出し体験を行うことで中学校との連携を深める。

また、「防災キャンプ」を中学校の協力を得て実施し、避難生活で発生するトラブルを疑似的に体験させて対処方法を学びあうことで中学生の共助力を高め、平日の日中に災害が起きたときでも対応できる人材の確保と非難が長期化した際のスタッフとしての役割分担を可能にする。中学生が参加すればその保護者である母親にも関心をもってもらう機会も生まれるので、地区イベントを継続することで主婦層の参加も期待できる。

- ③ 地域住民が継続的に関わるような組織や活動がない・・・初年度は第1段階として、前述の地区のイベント内で防災に関係する展示やゲームを行い、住民全体の関心を高めることを目標にする。第2段階として、次年度以降の取組みを通じて意欲のある者を発掘し、防災アドバイザーとしてイベントにおける講師役を務めてもらえるような人材に育てる。

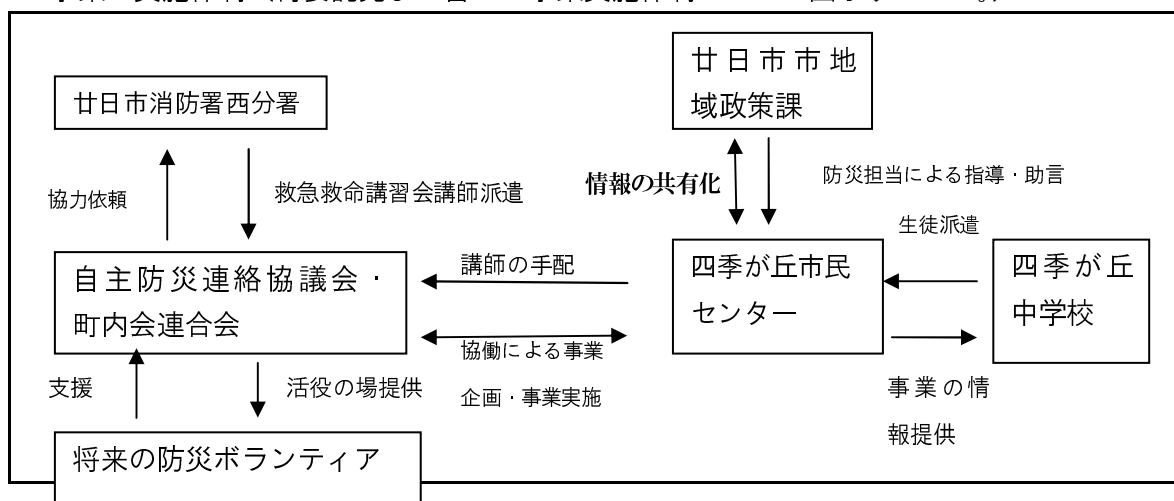
第3段階ではそうして育てた人材を各町内会に配置し、現在の四季が丘地区自主防災協議会の組織力を強化して行きたい。

- ④ 十数年後には高齢化が一気に進むことが予想されることから、そのために早めの対策が必要・・・この課題は団地の持つ人口の流動性の弱さに由来している。人口の流動性を高めることが課題解決につながることから、若い世代が安心して子育てができる団地づくりが不可欠であるが、講演会を通じて『自助・共助』の大切さ、他の地域で発生した実際の災害で発生した問題点やその克服方法を学ぶことや、非常の際に揃えておくべき非常食とそのストックの方法、小さな子どもやお年寄りがいる家庭で特に揃えておくべき非常食を栄養学的見地から学ぶことで災害に対する当面の対処をすることは可能である。

また、各町内会が毎年1回開催している救命救急講習会をプログラムの1つとして利用することで、特別な取組みをする必要なくAEDの操作方法や簡易担架の作り方などを学ぶことで地域全体の共助力の底上げを行って団地内年齢の高齢化に備える。

7. 支援プログラムの実施により得られることが見込まれる成果・効果

8. 事業の実施体制（再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。）



9. 支援プログラム実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
講演会	○						○					
夏祭り				○								
とんど										○		
救急救命講習			○			○		○			○	
防災ウォーク		○						○				
防災キャンプ					○							

10. 支援プログラムの評価にかかる項目

(評価体制、評価手法等を本プログラムの成果指標も含め、できるだけ具体的に記載すること。)

- 講座、学習会の開催回数（成果指標＝延べ8回）
- 事業参加者数（成果指標＝延べ250人）
- 「夏祭り」や「とんど」でロープワークや炊出し体験等に参加した人の数
（成果指標＝延べ40人）
- 事業に参加した中学生の数（成果指標＝延べ50人）
- プログラム参加回数年間5回以上の人数（成果指標＝全参加者の60%以上）

【以下は、複数年度の実施を予定している場合に作成すること】

11. 初年度の実施内容、成果を踏まえた次年度以降の支援プログラム実施内容及び実施方法等

2・3年目の支援プログラム

1 もしもの時の料理教室

- (1) 実施内容・・・初年度の「非常時の栄養学講座」をふまえて、少量の水と非常食を使った料理教室を実施。
- (2) 実施方法・・・特に主婦層を対象にした講座とする。四季が丘地区コミュニティづくり協議会の協力を得て参加者を募集することとし、参加予定者からあらかじめ特に詳しく教えてもらいたい内容についてのリクエストをもらっておく。缶詰の上手な利用方法や調理後の節水皿洗い等を実践することで、実際に最低限必要な水を含めた非常食のストック必要性和ストックすべき量を実際の料理講習を通じて学習する。年間

で3回程度の開催を目指す。

2 家族で体験する防災キャンプ

- (1) 実施内容・・・家族単位で市民センター等の避難所生活を体験する。キャンプ中の料理は、家族単位で作ってもらい、「1 もしもの時の料教室」を活用したものとし、一定の食料と水だけで過ごすように家族で工夫してもらおう。避難所で寝泊まりした際のルールやマナー、不慣れた環境の中でいかに快適に過ごせるようにするかを一人一人に考えてもらおう。また、この機会にロープワークや負傷者の応急処置の方法についても学習する。
- (2) 実施方法・・・参加者の募集とキャンプの企画と運営は、自主防災連絡協議会にお願いする。土日を利用して家族全員で参加してもらおう。救援物資が届く前の災害直後の状況を前提に実施するものとする。四季が丘地区町内会連合会を通じて参加者を募集し、ロープワークや負傷者の応急処置の方法については、廿日市消防署西分署の協力を得るものとする。

3 防災ウォーキング

- (1) 実施内容・・・初年度と同様年2回開催し、防災倉庫や危険個所を確認するが、巡回箇所は初年度または第2年度に確認できなかった防災倉庫と危険個所とする。
- (2) 実施方法・・・四季が丘地区コミュニティづくり協議会と四季が丘地区町内会連合会との協働事業として実施することで、参加者の増加と地区住民の意向上を目指す。